

J
Japan
Cardiovascular
Research
Foundation
CRF
2025
11
vol. 14

財団季報



公益財団法人
循環器病研究振興財団
Japan Cardiovascular Research Foundation

ノーベル賞発表の時期に思う

公益財団法人 循環器病研究振興財団

理事長 峰松 一夫



この原稿の〆切は、ノーベル賞の発表時期に重なります。今年は、10月6日発表のノーベル生理学・医学賞に大阪大学特任教授の坂口志文氏が、8日発表の化学賞に京都大学特別教授の北川進氏が選ばれました。残念ながら9日発表の文学賞に村上春樹氏は選ばれませんでした。来年以降の受賞を期待します。

さて、発表直前のAI予測によると（ASI 未来社会研究所）、生理学・医学賞の有力候補6人のうち3人が日本人でした。うち一人が受賞者の坂口特任教授でした。残る2人は、京都大学特別教授の森和俊氏と国立循環器病研究センター（以下、国循）元研究所長の寒川賢治氏でした。寒川氏は、循環制御に重要な役割を果たしているナトリウム利尿ペプチドやアドレノメデュリン、食欲増進作用のある胃産生ホルモンのグレリンなど、多くの生体ペプチドホルモンを発見しました。私が国循病院の副院長、病院長であった時期に、彼は国循理事・研究所長の要職にあり、国循の行事でしばしば一緒でした。循環器病研究振興財団（当財団）の理事にも就任されていました。武田医学賞、上原賞、慶応医学賞、日本学士院賞などを受賞され、国循在職当時からノーベル賞の有力候補の一人でした。今年2025年には「クラリベイト引用栄誉賞」という、ノーベル賞受賞確率の高い賞を受賞され、がぜんノーベル賞有力候補の一人と注目されていました。来年以降に期待したいです。

ノーベル賞強国といわれるわが国ですが、その多くは20～30年前に成し遂げられた研究です。当時のわが国の論文発表数は世界第3位であったと記憶します。今は中国や韓国など東アジアの躍進国に追いつかれ、追い抜かれています。原因はいろいろ考えられますが、研究費が右肩下がりになっていることが大きな原因かもしれません。

当財団は再来年2027年に創立40周年を迎えます。財団初代会長の佐治敬三氏が10周年誌の「ごあいさつ」に書かれた「国の事業を補う重要な役割を担う当財団の存在意義は極めて高く」という言葉を肝に銘じて、次の世代の育成に努めなければならないと思いを新たにしています。

当財団の主な事業

1. 研究助成事業

循環器病に関する医学研究ならびに看護研究に対して行う助成事業。

(1) 公募研究助成

- ① バイエル循環器病研究助成
- ② 読売テレビチャリティ基金研究助成
- ③ 循環器疾患看護研究助成

(2) 指定研究助成

- ① 個別研究
- ② 多施設共同研究



2025年度バイエル循環器病研究助成贈呈式



2025年度読売テレビチャリティ基金研究助成贈呈式

2. 普及支援事業

循環器病の予防・診断・治療の普及向上を図るための事業。

- ① 研究業績集発行及び研究成果発表会
- ② 学術活動支援
- ③ 移植医療支援
- ④ 予防啓発と知識の普及
- ⑤ 機関誌の発行及びホームページサービス



2025年度阪神甲子園球場での予防啓発活動

3. 調査研究事業

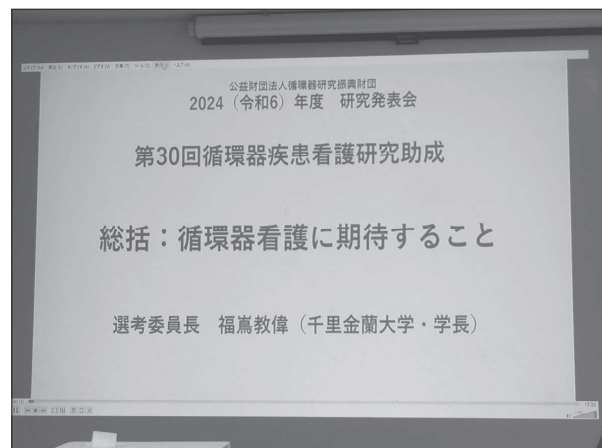
当財団が自主事業として行っている循環器病に関する調査研究。

当財団の活動報告

【循環器疾患看護研究助成】

令和7年8月30日、千里金蘭大学梅田キャンパスにおいて、当財団の助成事業である「循環器疾患看護研究助成」の研究報告会を開催いたしました。

2024年度助成者4名による研究報告の発表に続き、当日はご来場いただけませんでしたが、選考委員長であり千里金蘭大学 学長の福嶋教偉先生に「総括：循環器看護に期待すること」と題してご講演いただきました（ビデオ講演）。参加者は熱心に耳を傾け、非常に有意義な報告会となりました。



循環器疾患看護研究助成 2024年度助成 研究報告会

【学術活動支援】

循環器病に関する予防方法やその他の知識を一般に普及・啓発することを目的に、セミナーや講演会の開催を支援するため、学術活動支援の公募を行いました。今年度は2件のセミナーが採択され、「長崎県」と「熊本県」で開催される予定です。（1件あたり50万円）。多くの一般市民にご参加いただけるよう、開催申請者は自治体や関連団体と共催や後援の形で連携し、地域のニーズに応じた複数の講演内容を計画しています。当財団では、今後も予防啓発の取り組みをさらに広めていくことを目指しています。

	セミナーテーマ	開催申請者	日時・場所
1	2025年度県民公開講座 「みて、きいて、健康チェック 脳卒中と心臓病」	長崎大学病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター 教授 池田 聡司 先生	令和7年11月1日（土） 13：00～17：00 出島メッセ長崎
2	第18回熊本循環器市民公開講座 （動脈硬化をテーマとした講演）	熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学 教授 辻田 賢一 先生	令和7年12月20日（土） 12：00～16：00 熊本城ホール シビックホール

2025年度 研究助成対象者の紹介

バイエル循環器病研究助成

循環器関係の疾患について毎年度研究テーマを設定し公募を行っています。今年度は「循環器疾患と認知症」のテーマで、34課題の応募の中から下記の4課題が選考されました（1課題250万円）。



血管障害に伴う脳免疫環境変容と認知症進行メカニズムの解析

九州大学 生体防御医学研究所 アレルギー防御学分野 准教授 伊藤 美菜子

脳血管障害は血液脳関門の破綻や慢性炎症を引き起こし、アルツハイマー病におけるアミロイドベータ（ $A\beta$ ）沈着や神経変性の悪化に関与する可能性が示唆されています。しかし、血管障害と免疫環境変容の連関がアミロイド病理や認知機能に与える具体的な影響については未だ不明な点が多く残されています。本研究では、脳血流障害が脳内免疫環境と $A\beta$ 沈着、さらに認知機能障害に与える影響を明らかにし、新規治療法開発につなげることを目指しています。



HTRA1 機能喪失により誘導される血管障害と認知症病態の分子機序解明と制御

新潟大学医歯学総合病院 脳神経内科学分野 専任助教 北原 匠

脳の小血管は血流調節や老廃物除去など重要な機能を担い、加齢とともに機能が低下して認知症の原因となります。HTRA1 は遺伝性脳小血管病の原因遺伝子であり、脳小血管障害や心血管疾患のリスクにも関連します。我々は、HTRA1 を欠失させた脳小血管病モデルマウスを用い、加齢や HTRA1 欠失により増加する特殊な血管内皮細胞を見出しました。本研究では、シングルセルトランスクリプトーム解析や血管の三次元解析により、この内皮細胞が血管障害を引き起こす分子機序の解明を目的としています。



血管性認知症・CADASIL の病態解明を目指した疾患モデル小型魚類の作成

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長 齊藤 聡

血管性認知症の病態解明と治療薬開発は、高齢社会において喫緊の課題です。CADASIL は *NOTCH3* 遺伝子の病的バリエーションに起因する最も頻度の高い遺伝性脳小血管病で、脳卒中や認知症を引き起こす難病です。本研究では、ゼブラフィッシュやダニオネラ（透明魚）に *NOTCH3* 遺伝子の病的バリエーションを導入し、その表現型を解析することで病態解明を進めます。本研究は CADASIL の genotype-phenotype correlation を明らかにし、血管性認知症に対する新規治療薬開発の基盤構築を目的としています。



心不全と認知症をつなぐ心臓-脳リンパネットワーク破綻機構の解明

三重大学大学院医学系研究科 修復再生病理学 研究科内講師 丸山 和晃

心不全と認知症は高齢社会で増加し、QOL 低下や社会的負担をもたらす二大疾患です。近年、脳内アミロイド β の排出に脳リンパ管が関与することが注目され、循環器疾患との関連解明が求められています。本研究では、申請者が発見した心臓-脳リンパネットワークに着目し、心不全が脳リンパ排出障害を介して認知症を誘発する機序を明らかにすることを目的としています。

読売テレビチャリティ基金研究助成

本研究助成は読売グループ4社（読売テレビ、読売新聞、報知新聞、読売ゴルフ）が主催する「循環器病チャリティ・ゴルフ（P8参照）」から循環器病研究振興財団に贈呈された「チャリティ基金」により2024年から実施しております。循環器病領域の研究費が削減される中、循環器病に関する研究の一助となり、ひいては、当該研究成果が循環器病の新たな原因究明、治療方法に繋がることを期待しています。2025年度は、循環器病に関する臨床、基礎（疫学含む）、トランスレーショナル（基礎・臨床を含む）のいずれかの分野に関する研究の公募を行い、39課題の応募の中から下記の3課題が選考されました（1課題200万円）。

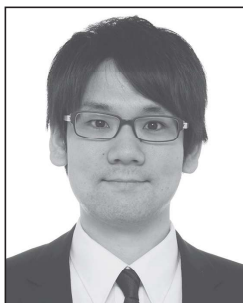
2026年度の募集要項については、2025年12月初旬の情報公開を予定しています。



心不全におけるD体アミノ酸代謝に関する基盤研究

九州大学病院別府病院 循環器内科 助教 池田 昌隆

社会の高齢化に伴う心不全患者の増加は、深刻な社会課題となっており、その予後は依然として不良です。本研究では、生体内で主要なアミノ酸であるL体アミノ酸とは対照的に、ごく微量に存在するD体アミノ酸（L体の光学異性体）が循環生理において果たす役割を明らかにすることを目的としています。心不全の予後を改善する既存の治療はすべて“代謝”を標的としており、“代謝”は心不全における最も有望な治療標的ですが。本研究により得られる「心不全におけるD体アミノ酸代謝に関する知見」を基盤として、心不全に対する新規治療法の開発を目指しています。

構造生物学的アプローチによるK⁺電流異常に起因するQT延長症候群の病態解明

自治医科大学医学部 生理学講座統合生理学部門 講師 糟谷 豪

QT延長症候群は、心電図上のQT間隔が延長する遺伝性の不整脈で、KCNQ1とKCNE1遺伝子にコードされるIKsチャネル複合体の機能低下が主な原因の1つとされています。本研究では、クライオ電子顕微鏡による構造解析と電気生理解析を通じて、KCNQ1とKCNE1遺伝子の変異がIKsチャネル複合体の構造と機能に与える影響を明らかにし、QT延長症候群の病態形成機構をタンパク質立体構造の観点から解明することを目指しています。



がん化学療法による血管老化と駆出率保持型心不全の関連解明と治療法の探索

京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学 助教 木谷 友哉

近年、抗がん剤によるがん化学療法の副作用として心血管障害の増加が問題となっています。抗がん剤は細胞老化を引き起こすことが知られていますが、抗がん剤による血管細胞の老化と高齢者に多い心不全である駆出率保持型心不全（HFpEF）の関連は不明な点が多い状態です。本研究では、がん治療による血管の細胞老化がHFpEF発症に関与する分子機序を解明し、新たな治療標的を探索することを目的としています。

循環器疾患看護研究助成

循環器病の看護に関し自由課題で公募を行っています。今年度は下記の課題が選考されました(1課題30万円)。

**専用シートを用いた慢性心不全患者に対するAdvance Care planning の運用とその効果**

昭和医科大学/昭和医科大学病院 大学院保健医療学研究科看護学分野/看護部 講師/看護師 岩永 悠季

心不全患者では、医療者と患者との病期認識の不一致が、意思決定支援を難しくする要因の一つとして報告されています。この課題に対応するため、本研究では、病期認識の差異や本人の意思を可視化する専門シート「心不全治療とケアに関する意思共有ガイド」の有効性を検証します。さらに、本シート導入が患者の心理的安定や満足度に及ぼす影響を明らかにし、心不全看護における実践的支援モデルの構築につなげることを目指します。

**小児体外式補助人工心臓における送脱血管貫通部の管理方法に関する検討**

国立成育医療研究センター 看護部 8階東 看護師 西郡 一貴

本邦における小児の心臓移植待機期間は約2年であり、移植までのブリッジとして小児ではその体格から体外式補助人工心臓が選択される場合が多くなっています。待機期間中に貫通部から感染するリスクは常にあり、その管理は極めて重要な課題となっていますが、統一された方法はなく、施設毎にそのメリットやデメリットは様々であることが考えられます。本研究では各施設からの情報を収集・分析し、より感染の少ない管理方法を検討するための一助となることを目指しています。

**心不全の症状と重症度評価について AI 模擬患者が看護診察スキル向上に与える影響**

千里金蘭大学 看護学部 看護学科 教授 平尾 明美

日本の心不全患者は約120万人で今後も増加が予測されます。高齢患者の自己管理困難に対し、看護師による定期的な問診とアセスメントが重要です。研究者らはAI模擬患者を実装したWeb問診アプリを開発しました。従来のペーパーペイシェントと異なり、AI患者は幅のある返答が可能で、現実に近い対話的問診を実現します。看護師は時間・場所を問わず音声対話で自己学習できます。本研究では、AI模擬患者による問診トレーニングが看護師の問診スキル向上に与える影響を明らかにすることを目的とします。

**学童児向け“医学とアートが融合した新感覚の周術期ﾌﾟﾚﾊﾟﾚｰｼｮﾝﾂｰﾙ”のPICU看護師らによるﾛｰﾙﾌﾟﾚｲを用いたfeasibility study**

筑波大学 医学医療系 発達支援看護学 准教授 涌水理恵

プレパレーションは児の発達に応じた疾患理解を高め、児の不安を最小限に抑える効果のみならず、児の長期的な心身の成長・発達に良い影響を及ぼします。筑波大学では医学・看護学・芸術学の専門家が学際的チームを組み、心臓手術をうける学童期の児を対象に、医学的内容にアートの要素を組み入れた次世代型/視聴型/手動操作型プレパレーションツールを開発しました。児に親しみやすいキャラクターを登用し、心臓の開胸手術を受ける学童児の術前・術中・術後の生活やリハビリをイメージできる写真と映像を組み込んだツールです。本研究ではPICUでロールプレイを用いたfeasibility studyを実施し、ツールのより良い使用方法を検討することを目指します。

健活！城まち ごみO・ウォーク

2025年3月23日（日）、「健活！城まち ごみO・ウォーク」が開催されました。

本イベントは、大阪・関西万博の開催に向け、期間中に多くの旅行客が訪れる大阪城公園の美化と、公園内史跡への関心を高めていただくことを目的に、読売テレビの主催で実施されました。

当日は、春の陽気に恵まれた絶好のウォーキング日和となり、約900人が参加。桜のつぼみが膨らむ大阪城公園を散策しながら、

ごみを拾ったり、天守閣や石垣についてのガイドの説明に耳を傾けたりと、それぞれに春のウォーキングを楽しまれました。

当財団は、国立循環器病研究センターと共催で本イベントに参加し、ブースを設けて「知っておきたい循環器病あれこれ（小冊子）」を配布いたしました。



第38回循環器病チャリティ・ゴルフ

◆ゴルフ大会◆

2025年9月27日（土）、兵庫県西宮市のよみうりカントリークラブにおいて、恒例の「循環器病チャリティ・ゴルフ」が開催されました。本大会は、読売グループ4社（読売テレビ、読売新聞社、報知新聞社、読売ゴルフ）の主催並びに厚生労働省をはじめ近畿圏の自治体、医師会等の後援により行われております。今回は、21社がご協賛され、93名の方がご参加されました。

◆医療セミナー・ゴルフ表彰式・チャリティ基金贈呈式◆

9月29日（月）、読売テレビ10hallにおいて、医療セミナーが開催され、国立循環器病研究センター オープンイノベーションセンター センター長 宮本恵宏先生が「飲酒と健康リスク」をテーマにご講演をされました（要旨はP9～P11）。セミナー後は会場を10plazaに移し、「2025年度読売テレビチャリティ基金研究助成」採択者（紹介はP6）への贈呈証授与式が行われました。続いて、ゴルフ大会の成績発表ならびに個人・団体の優勝者等の表彰が行われた後、松田陽三循環器病チャリティ・ゴルフ運営委員会委員長（読売テレビ代表取締役社長）より峰松一夫理事長へチャリティ基金の贈呈があり、

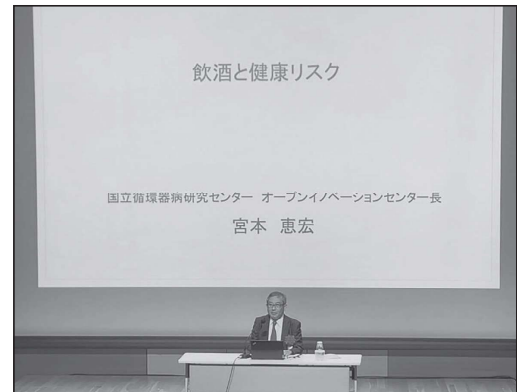
10,213,000円をご寄付いただきました。チャリティ・ゴルフを通じて皆様より賜りました貴重なご浄財は、循環器病に関する知識の普及・予防啓発及び研究助成に活用させていただきます。読売テレビ放送株式会社をはじめ、参加者の皆様並びに関係各位のご支援に心より感謝申し上げます。



【第38回循環器病チャリティーゴルフ医療セミナー】（要旨）

『飲酒と健康リスク』

国立循環器病研究センター
オープンイノベーションセンター
センター長
宮本 恵宏



酒は百薬の長ではない

これまで「酒は百薬の長」といわれていましたが、今日は、「酒は百薬の長ではない」というお話をしたいと思います。2023年1月に世界保健機関（WHO）は「アルコール消費に関して、健康に影響を与えない“安全な量”は存在しない」という声明を出しました。公益社団法人 日本脳卒中協会の「脳卒中予防10か条」でも、2003年に作られたものでは「アルコール 控え目は薬 すぎれば毒」としていましたが、「脳卒中予防10か条2025」では「飲むならば なるべく少なく アルコール」となりました。なぜそのようになったかをお話します。

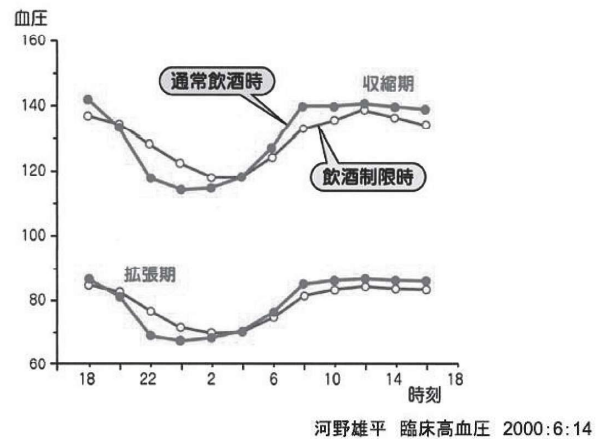
我が国の死因の1番は悪性新生物ですが、第二位は心疾患であり、脳血管疾患を含む循環器疾患は20%を占め、5人に1人は循環器疾患で亡くなっています。そして高血圧は循環器疾患の主要なリスク因子です。この表は、健康診査（健診）で生活習慣病に関するリスクとして指摘される項目（血圧、血糖、HDL コレステロール、中性脂肪、LDL コレステロール、喫煙）とそれを改善することが科学的に証明されている生活習慣を表にしたものです。血圧が高いと言われた場合に改善すべき生活習慣は、減塩、カリウム摂取量を増やす、禁煙、運動と並んで、飲酒量を減らすことが挙げられています。

危険因子と生活習慣改善（優先度が高い順に◎→○→△）										
	減塩	カリウム摂取↑	食物繊維摂取	カルシウム摂取	総エネルギー減	脂質減	脂質の調整	適量飲酒改善	禁煙	身体活動
血圧	◎	◎	○	○	△ ₁₎	△ ₁₎		◎	◎	◎
血糖			○		◎	◎			○	◎ ₂₎
HDL-C					△	△			◎	◎
中性脂肪			○		◎	◎ ₃₎		◎	○	◎
LDL-C			○				◎ ₄₎		○	△
喫煙									◎	

※1 要治療レベルの腎機能異常がある場合には要診動向を行う。
 ※2 やせの場合を除く
 1) 過去の経緯で体重増加が明らかな場合 2) よく噛み食事をし、食べる順番、朝食をとる、やけ食い・暴飲をしない、食事の時間・間食回数 3) 砂糖等の単純糖質 4) 飽和脂肪酸 1、コレステロール1、多価不飽和脂肪酸
 平成27年度厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・脳血管疾患等生活習慣病対策研究事業「脳血管疾患に対する保健指導方法の開発に関する研究」

お酒を飲むと血管が広がり、飲酒後の夜間の血圧は下がります。しかし、朝から昼間の血圧はかえって高くなります。習慣的にアルコールを摂取する高血圧男性で、いつものようにアルコール摂取量を維持する期間と、飲酒制限した期間での 24 時間の血圧を調べると、飲酒期間中は夜間の血圧は低下しましたが、朝方から昼間の血圧は上昇しました。朝方から昼間の血圧が高くなることは脳卒中や心筋梗塞のリスクとなると考えられています。

高血圧の人が飲んでいる時と酒を控えた時の24時間血圧計



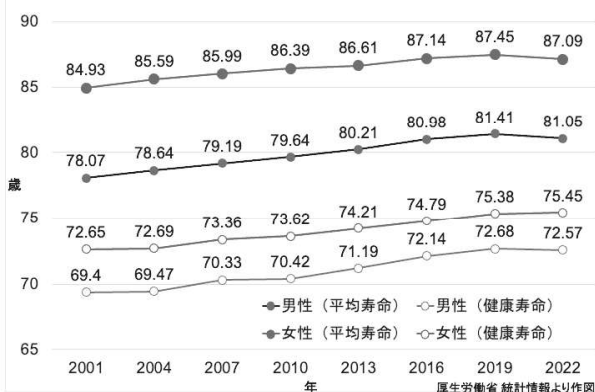
平均寿命と健康寿命

我が国の平均寿命は世界でも長いことが知られています。しかし、自立して生活できる期間、いわゆる健康寿命は世界の中で決して長くありません。そのため平均寿命と健康寿命の差は大きく、残念ながらほとんど改善されていません。

平均寿命と健康寿命の差を生み出す病気や障害によって失われた期間を障害調整生命年 (DALY) と言います。DALY は 1 日に摂取するアルコールの量がゼロである時が最も低く、

摂取するアルコール量が少して DALY を生じ、1 日に摂取するアルコール量が増えると DALY は大きくなります。アルコールを摂取することで食道がんや肝臓がんなどの悪性新生物のリスクが高まりますし、糖尿病や循環器疾患、大腿骨頭壊死や骨粗鬆症などの整形外科疾患のリスクも高くなります。

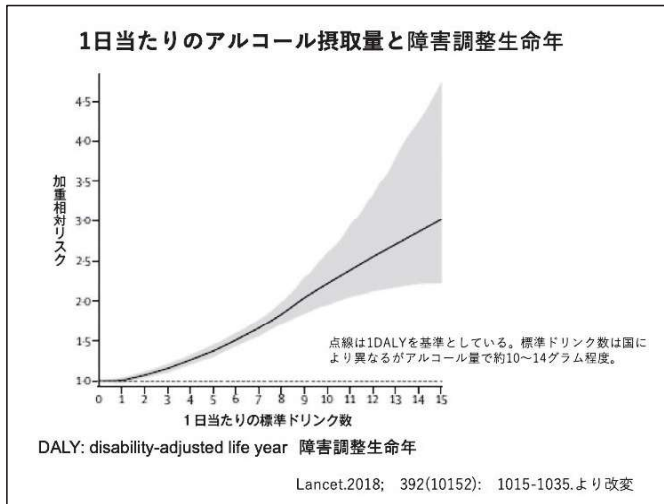
我が国の平均寿命と健康寿命の推移



厚生労働省は、国民一人ひとりの自らの健康

観に基づく取り組みを社会の様々な健康関連グループが支援し、健康を実現することを理念として「健康日本 21」という健康施策を定めています。2024 年から始まった健康日本 21（第三次）

では、「生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の減少」と「20 歳未満の者の飲酒をなくす」の2つが目標となりました。健康日本21では、実行性のある目標設定という観点も踏ま



え、生活習慣病のリスクを高める飲酒量を1日当たりの平均純アルコール摂取量を男性で40g、女性で20g以上と定義し、それ以上飲む人を減らすことを目標としました。1日のアルコール摂取量が男性は40g、女性は20gを超えないようにすることが大切です。

お酒に含まれるアルコールはアルコール脱水素酵素によって分解されてアセトアルデ

ヒドになります。アセトアルデヒドはアルデヒド脱水素酵素（ALDH2）によって分解され酢酸になり、最終的には二酸化炭素と水になります。アセトアルデヒドは、毒性が強く、発がん性があるとされています。またアセトアルデヒドが体内に蓄積すると頭痛や吐き気の原因になり、二日酔いを起こします。日本人の約41%はALDH2の働きが遺伝的に弱いため、お酒に弱い、またはお酒が飲めない体質を有しています。

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒しない。これは、簡単のようでなかなか難しいことです。適度な飲酒量にするために重要なことは、1日の飲酒量を減らすことだけではなく常習飲酒（毎日飲酒すること）をやめることだと言われています。

「休肝日」という言葉があります。「毎日飲む」より「休肝日を作る（飲まない日を決める）」の方が良いことは間違いありません。しかし、できれば「飲まないことが普通であり、機会に合わせて飲む」のが良いと思います。

健康的な飲酒を実現する社会環境を達成するためには、他者に飲酒を求めない社会習慣、食事や会食を楽しめる非アルコール・低アルコール飲料品の開発と市場の拡大、未成年者の飲酒をなくすための家庭、学校、飲食店、販売店の連携が求められています。

生活習慣病のリスクを高める飲酒量

1日当たりの平均純アルコール摂取量

男性 40 g 以上
女性 20 g 以上

男性は40g未満、女性は20g未満が強く推奨されている

純アルコール量(g) = お酒の量(ml) × アルコール度数(%) ÷ 100
× 0.8(アルコールの比重)

健康日本21(第三次)

令和 6 年度事業報告書

令和 6 年度においては、助成事業、普及支援事業、調査研究事業の 3 分野の事業を行った。

【1】助成事業

(43, 619千円)

1. 公募研究助成

(16, 800千円)

(1) 公募自由課題研究助成

(6, 000千円)

「読売テレビチャリティ基金研究助成」

【研究テーマ】循環器病に関する、臨床、基礎、トランスレーショナルの3分野についての研究

【応募数：35課題】

	研 究 課 題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	単極誘導で評価する不整脈基質とアブレーションへの応用	片岡直也	富山大学 学術研究部医学系内科学第二 助教	2, 000千円
2	間質を標的とした心不全治療戦略の開発	加藤勝洋	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科 助教	2, 000千円
3	心臓マクロファージを起点とした免疫細胞ネットワークによる心不全制御機構の解明	工藤藤美	千葉大学大学院 医学研究院 疾患システム医学 特任助教	2, 000千円

《研究発表会開催》 令和 7 年 10 月 27 日（月）（会場：国立循環器病研究センター）

(2) バイエル循環器病研究助成

(10, 000千円)

【研究テーマ】心不全と分子機構

【応募数：43 課題】

	研 究 課 題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	in vivo 代謝・酸化脂質モニタリング・イメージング技術を用いた心血管疾患の病態解明	勝俣良紀	慶應義塾大学医学部 スポーツ医学総合センター 講師	2, 500千円
2	非心筋細胞の心不全病態及び多臓器連関における役割の全貌解明とそれに基づく新規治療法開発	小室 仁	東京大学医学部附属病院 循環器内科 特別研究員	2, 500千円
3	心筋細胞の 4 倍体化を忠実に再現する iPS 細胞心筋症モデルの開発	宮岡佑一郎	公益財団法人東京都医学総合研究所 疾患制御研究分野 再生医療プロ ジェクト プロジェクトリーダー	2, 500千円
4	単球の圧力受容体 GPR68 に着目した新規心不全発症機構の解析と治療薬シーズ導出 -CryoEM を活用した電子レベルの分子機構解析-	吉田優哉	九州大学大学院 薬学研究院 薬物動態学分野 助教	2, 500千円

《研究発表会開催》 令和 7 年 9 月 20 日（土）（会場：第 73 回日本心臓病学会学術集会）

(3) 循環器疾患看護研究助成

(800千円)

【研究テーマ】自由課題（循環器疾患看護に関する研究）

【応募数：5 課題】

	研 究 課 題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	家族の代理意思決定で Bridge to decision となった重症心不全患者に伴う全人的苦痛の様相	小谷彩乃	国立循環器病研究センター I C U 看護師	200千円
2	遺伝学的検査を受け遺伝性結合組織疾患の診断が確定した人の体験と支援ニーズ	清水知子	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 招聘教員	200千円

	研 究 課 題	研究者	所属・職名	助成交付額
3	集中治療室から退室した循環器疾患患者の急変前兆候及び背景要因の分析	長野美紀	国立循環器病研究センター I C U 副看護師長	200千円
4	看護学部学生に対する臨床推論に基づいた心不全フィジカルアセスメントの効果	前田晃史	千里金蘭大学 看護学部看護学科 講師	200千円

《研究報告会開催》 令和7年8月30日（土）（会場：千里金蘭大学梅田キャンパス講義室）

2. 指定研究助成

(25,216 千円)

(個別研究)

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額
1	血管病変の早期診断治療における画像処理情報技術の向上に関する研究	飯田秀博	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 客員教授	(継続) 500 千円 R7 終了予定
2	メタボリックシンドロームの動脈硬化症の発症・進展に及ぼす影響に関する基礎的、臨床的研究	野口輝夫	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 部長	(継続) 140 千円 R9 終了予定
3	心不全に対する外科的治療法の開発	藤田知之	東京科学大学 心臓血管外科学分野 教授	(継続) 2,000 千円 R8 終了予定
4	先天性心疾患における遠隔期成績向上を目指した外科治療法の開発	盤井成光	国立循環器病研究センター 小児心臓外科 部長	(継続) 280 千円 R7 終了予定
5	生体弁機能不全に対する高圧バルーンを使用した Valve-in-Valve 治療に関する研究	小林順二郎	国立循環器病研究センター 名誉院長	(継続) 2,751 千円 R9 終了予定
6	血圧および血行動態の日内変動に関する研究	岩嶋義雄	大阪大学医学部 老年・総合内科 科学講座 特任准教授	(継続) 45 千円 R7 終了予定
7	循環器病におけるイメージングバイオマーカーを用いた新たな包括的画像解析技術の開発と臨床応用	福田哲也	国立循環器病研究センター 放射線部 部長	(継続) 7,100 千円 R11 終了予定
8	回収式自己血輸血の止血機能に関する研究	吉谷健司	国立循環器病研究センター 輸血管理部長	(継続) 1,000 千円 R8 終了予定
9	複雑心臓弁膜症手術の推進	福嶋五月	国立循環器病研究センター 心臓外科部長	(新規) 300 千円 R8 終了予定

(多施設共同研究)

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額 助成終了年度
10	急性脳血管症候群登録観察研究 (ACVS registry Study)	内山真一郎	山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター長	(継続) 100千円 令和7年度
11	大動脈解離に対する弓部・下行大動脈のステントグラフト内挿術の中長期成績の検討	松田 均	国立循環器病研究センター 心臓血管外科部門 血管外科 部長	(継続) 11,000千円 令和8年度

3. その他助成事業費

(1,603 千円)

【2】普及支援事業

(7,926千円)

1. 研究成果発表

(1,062千円)

(1) 研究業績集の発行

(122千円)

前年度の研究助成の成果を研究報告集にまとめて、大学・研究所等へ配布

(指定研究助成：200部発行)

(2) 研究発表会の開催

(940千円)

研究発表会を開催し、前年度に実施した公募研究助成の研究成果の発表

	発表会名	開催日時・場所等
1	「バイエル循環器病研究助成」研究発表会	- 日時：令和6年7月7日(日) 8:30~10:00 - 会場：第56回日本動脈硬化学会学術集会(神戸国際会議場) - テーマ：動脈硬化と炎症・免疫メカニズム
2	「循環器疾患看護研究助成」研究発表会	- 日時：令和6年11月9日(土) 15:00~16:00 - 会場：第21回日本循環器看護学会学術集会(日本赤十字看護大学)
3	「山内進循環器病研究助成」研究発表会	- 日時：令和6年11月6日(水) 15:00~16:45 - 会場：国立循環器病研究センターエントランス棟3階講堂

2. 学術活動支援

(1,054千円)

循環器病に関する小規模研究、セミナー等に対する支援

	セミナー名	開催日時・場所等
1	みんなで減塩フェスタ in やはば	- 日時：令和6年12月8日(日) 10:30~12:30/13:30~15:00 - 会場：やはば一く(岩手県紫波郡矢巾町) - 開催者：佐々木真理(岩手医科大学 いわて東北メディカル・マネジメント機構 機構長)
2	塩分の減らし方、正しく知って、取り組みもう！ー減塩の取り組み方、続け方のコツー	- 日時：令和7年1月12日(日) 13:00~15:30 - 会場：吉野川市文化研修センター(徳島県吉野川市) - 開催者：小川 敦(徳島大学病院 薬剤部 試験室長)

※セミナー会場にて「知っておきたい循環器病あれこれ」を配布

3. 移植医療支援等事業

(0千円)

循環器疾患に関する移植医療の円滑な実施のための支援(アグネス基金)

4. 予防啓発活動

(5,810千円)

(1) 小冊子

(5,050千円)

『知っておきたい循環器病あれこれ』の刊行

循環器病予防啓発の小冊子を奇数月に発行し、国立循環器病研究センター、健康保険組合、講演会などで

一般市民に配布(年間18,000部発行)

	タイトル	執筆者 (所属施設：国立循環器病研究センター)		発行日
164	カテーテル治療の進歩 ー冠動脈疾患・弁膜症・不整脈ー	高木健督 宮本康二 草野研吾	心臓血管内科部門 冠疾患科 医長 不整脈科 医長 部門長・副院長	令和6年5月1日
165	カテーテル治療の進歩 ー胸部と腹部の大動脈瘤ー	松田 均	血管外科 部長	令和6年7月1日
166	カテーテル治療の進歩 ー脳梗塞ー	吉江智秀 豊田一則	脳血管内科 医師 脳血管内科 部門長	令和6年9月1日

	タイトル	執 筆 者 (所属施設：国立循環器病研究センター)		発行日
167	循環器病の新しいリハビリテーション ー脳卒中と心臓病ー	横田千晶 村田 誠	脳血管リハビリテーション科 医長 心血管リハビリテーション科 医長	令和6年11月1日
168	心臓移植と補助人工心臓の進歩	塚本泰正 福島五月	移植医療部 部長 心臓外科 部長	令和7年1月1日
169	小・中学生の循環器病 ー早期発見と予防法ー	野口倫生 黒岩健一	糖尿病・脂質代謝内科 医長 小児循環器内科 部長	令和7年3月1日

(2) 機関誌『季報』の発行 (254千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開など

(3) ホームページの運営 (<https://www.jcvrf.jp>) (296千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開、助成事業の公募案内など

(4) 市民健康講座 (197千円)

一般市民を対象に循環器病予防に関する知識の普及および啓発のために講座を開催

	名 称	日 時 ・ 場 所
1	シナジーワールドワイド・ジャパン 循環器病研究振興財団 健康セミナー	・ 日 時：令和6年5月25日（土）14:00～15:30 ・ 会 場：シナジーワールドワイド・ジャパン合同会社本社 ・ 演 題：がんの予防と早期発見 乳がん、子宮がんを中心に ・ 講 師：国際医療福祉大学大学院医学系研究科 公衆衛生学専攻 教授 元国立がん研究センターがん予防・検診研究センター長 津金 昌一郎

(5) キャンペーン (5千円)

阪神甲子園球場のオーロラビジョン、ライナービジョンで財団のPRと予防啓発

(6) 共催・後援名義使用 (8千円)

(共催)

	名 称	主 催 者	日時・場所
1	健活！城まち ごみ0・ウォーク	読賣テレビ放送株式会社	・ 令和7年3月23日（日） ・ 大阪城公園内

(後援)

	名 称	主 催 者	日時・場所
1	2024年度脳卒中月間ポスター	日本脳卒中協会 理事長 峰松一夫	・ 令和6年10月1日～31日 ・ 医療機関、薬局等に掲示
2	いさはや ウェルビーイング イベント テーマ：心臓病と上手につきあい健康 寿命を延ばそう	株式会社ファンクス	・ 令和6年11月17日 13:00～16:30 ・ 小長井文化ホール（長崎県諫早市）
3	2024年度心房細動週間ポスター	日本脳卒中協会・理事長 峰松一夫 日本不整脈心電学会・理事長 多田 浩	・ 令和7年3月9日～3月15日 ・ 新聞広告掲載等

【3】調査研究事業

(682千円)

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	事業費 終了年度
1	日本を含むアジア地域の急性心筋梗塞の治療 および予後の実態調査（JAMIR2）	安田 聡	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 教授	（継続） 682千円 R8 終了予定

令和7年度事業計画書

【1】助成事業

(34,174 千円)

1. 公募研究助成

(17,200 千円)

	助 成 名	研 究 テ ー マ	助 成 金 額
1	公募自由課題研究助成 【読売テレビチャリティ基金 研究助成】	循環器病に関する、臨床、基礎、トランスレー ショナルの3分野の研究	@2,000 千円×3 課題=6,000 千円
2	バイエル循環器病研究助成	循環器疾患と認知症	@5,000 千円×1 課題=5,000 千円 @2,500 千円×2 課題=5,000 千円
3	循環器疾患看護研究助成	(自由課題) 循環器疾患看護に関する研究	@300 千円×4 課題=1,200 千円

2. 指定研究助成

(16,974 千円)

(個別研究)

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額
1	血管病変の早期診断治療における画像処理情報技術の向上に関する研究	飯田秀博	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 客員教授	(継続) 624 千円 R7 終了予定
2	メタボリックシンドロームの動脈硬化症の発症・進展に及ぼす影響に関する基礎的、臨床的研究	野口輝夫	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 部長	(継続) 1,000 千円 R9 終了予定
3	心不全に対する外科的治療法の開発	藤田知之	東京科学大学 心臓血管外科学分野 教授	(継続) 3,000 千円 R8 終了予定
4	先天性心疾患における遠隔期成績向上を目指した外科治療法の開発	盤井成光	国立循環器病研究センター 小児心臓外科 部長	(継続) 300 千円 R7 終了予定
5	生体弁機能不全に対する高圧バルーンを使用した Valve-in-Valve 治療に関する研究	福嶋五月	国立循環器病研究センター 心臓外科部長	(継続) 2,700 千円 R9 終了予定
6	血圧および血行動態の日内変動に関する研究	岩嶋義雄	大阪大学医学部 老年・総合内科 学講座 特任准教授	(継続) 50 千円 R7 終了予定
7	循環器病におけるイメージングバイオマーカーを用いた新たな包括的画像解析技術の開発と臨床応用	福田哲也	国立循環器病研究センター 放射線部 部長	(継続) 5,000 千円 R8 終了予定
8	回収式自己血輸血の止血機能に関する研究	吉谷健司	国立循環器病研究センター 輸血管理部長	(継続) 500 千円 R8 終了予定
9	複雑心臓弁膜症手術の推進	福嶋五月	国立循環器病研究センター 心臓外科部長	(継続) 300 千円 R8 終了予定

(多施設共同研究)

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額
10	急性脳血管症候群登録観察研究 (ACVS registry Study)	内山真一郎	山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター長	(継続) 500 千円 R7 終了予定
11	大動脈解離に対する弓部・下行大動脈のステントグラフト内挿術の中長期成績の検討	松田 均	国立循環器病研究センター 心臓血管外科・血管外科 部長	(継続) 3,000 千円 R8 終了予定

【2】普及支援事業 (10,375 千円)

1. 研究業績発表 (2,300 千円)

1	研究業績集の発行	前年度に実施した研究助成の研究成果をまとめ、国立病院・大学・研究所等へ配布する。また、ホームページ上で公開する。	121 千円
2	研究発表会の開催	前年度に実施した公募研究助成の研究成果を関連学会等において発表をする。	2,179 千円

2. 学術活動支援 (1,063 千円)

循環器病に関する小規模研究、セミナー等に対する支援

3. 移植医療支援 (400 千円)

循環器疾患に関する移植医療の円滑な実施のための支援（アグネス基金）

4. 予防啓発活動 (6,612 千円)

(1) 小冊子 (5,485 千円)

『知っておきたい循環器病あれこれ』の刊行

循環器病予防啓発の小冊子を奇数月にそれぞれ 3,000 部発行し、国立循環器病研究センター、健康保険組合、講演会などで一般市民に配布する。

(「知っておきたい循環器病あれこれ」発行予定表)

	タイトル	執 筆 者 (所属施設：国立循環器病研究センター)		発行予定日
170	循環器病対策の新しい取り組み ー脳卒中・心臓病等総合支援センター モデル事業などー	飯原 弘二	前・病院長 循環器病対策情報センター長 脳卒中・循環器病次世代 医療研究部長 脳神経外科	令和7年5月1日
171	脳卒中患者の緩和ケア	片岡 大治	脳神経外科 部長	令和7年7月1日

	タイトル	執 筆 者 (所属施設：国立循環器病研究センター)		発行予定日
172	飲酒と健康リスク	宮本 恵宏	オープンイノベーション センター センター長	令和7年9月1日
173	心不全パンデミックとは	北井 豪	心不全・移植部門 心不全全部 部長	令和7年11月1日
174	胎児の心臓の病気	吉松 淳	産婦人科部 部長	令和8年1月1日
175	フォンタンあれこれ	大内 秀雄 森 有希	小児循環器科	令和8年3月1日

(2) 機関誌『季報』の発行 (251 千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開などを行う。

(3) ホームページサービス事業 (<https://www.jcvrf.jp/>) (296 千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開、助成事業の公募などを行う。

(4) 市民健康講座 (580 千円)

一般市民を対象に循環器病予防に関する知識の普及および啓発のために講座を開催する。

読売チャリティ医療フォーラム等

(5) キャンペーン

阪神甲子園球場において財団PRと予防啓発を行う。

(6) 共催名義使用

団体等が行う循環器病に関する市民講座等の共催、後援などを行う。

【3】調査研究事業

(2,183 千円)

当財団の自主事業として行う研究。なお、研究者への助成を目的とするものではない。

	研 究 課 題	研究代表者	所属機関・職名	事 業 費
1	日本を含むアジア地域の急性心筋梗塞の治療および 予後の実態調査 (JAMIR2)	安田 聡	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 教授	(継続) 2,183 千円 R8 終了予定

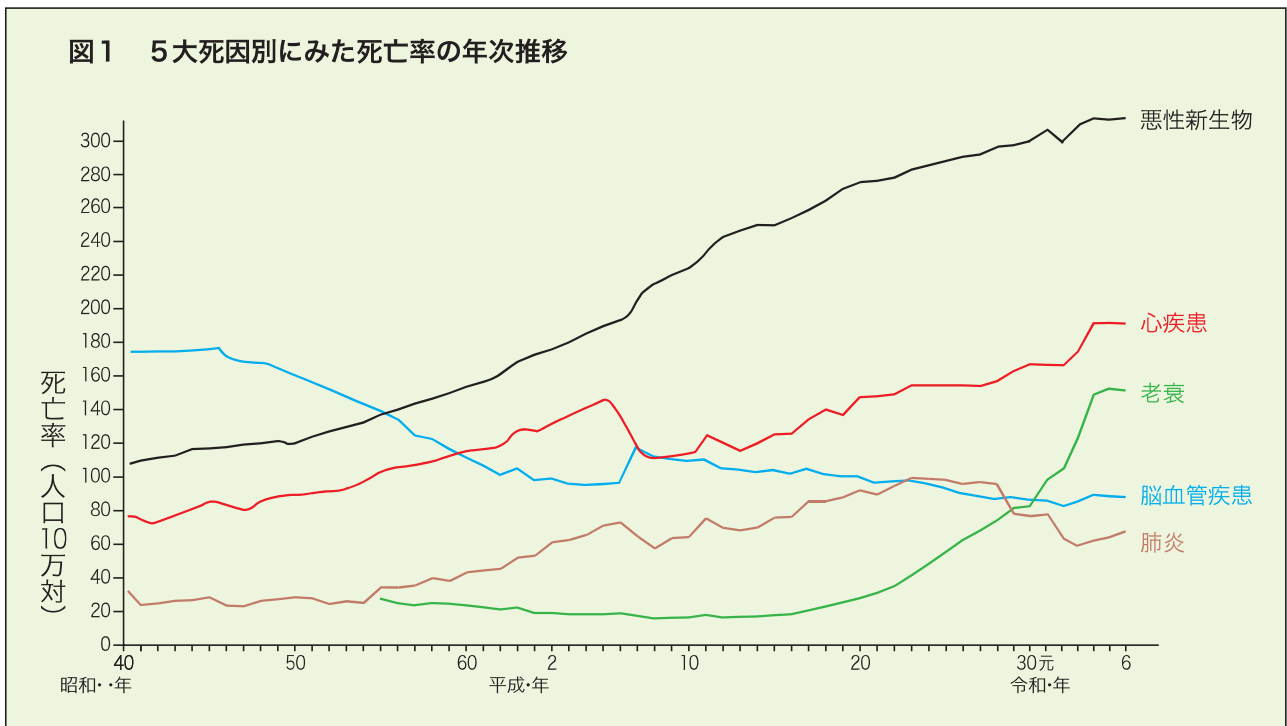
循環器病をめぐる統計

厚生労働省が発表した令和6年人口動態統計によると、5大死因別「**悪性新生物**、**心疾患（高血圧性を除く）**、**老衰**、**脳血管疾患**、**肺炎**」の死亡者数、死亡率（人口10万対）及び全死亡者に占める割合は、表1のとおりである。また、5大死因別死亡率の年次推移は図1のとおりである。

表1 5大死因別による死亡者数、死亡率及び全死亡者に占める割合

	令和6年度			令和5年度		
	死亡者数	人口10万対死亡率	全死亡者に対する割合	死亡者数	人口10万対死亡率	全死亡者に対する割合
悪性新生物	384,111人	319.3	23.9 %	382,504人	315.6	24.3 %
心疾患	226,388	188.2	14.1	231,148	190.7	14.7
老衰	206,887	172.0	12.9	189,919	156.7	12.1
脳血管疾患	102,821	85.5	6.4	104,533	86.3	6.6
肺炎	80,176	66.6	5.0	75,753	62.5	4.8
その他	604,995	502.9	37.7	592,159	488.6	37.5
全死因	1,605,378	1334.5	100.0	1,576,016	1300.4	100.0

図1 5大死因別にみた死亡率の年次推移



注：

- 1) 平成6・7年の**心疾患の低下**は、死亡診断書（平成7年1月施行）における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの影響によるものと考えられている。
- 2) 平成7年の**脳血管疾患の上昇**の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられている。
- 3) 平成9年までは、**心疾患と脳血管疾患**による合計死亡者数は、悪性新生物による死亡者数を上廻っていたが、平成10年以降では若干下廻る結果となっている。悪性新生物（特に肺がん・結腸・膵）による死亡者数の上昇傾向が大きく影響している。
- 4) 平成30年には、**老衰**による死亡者が、**脳血管疾患**による死亡者数を抜いて第3位となっている。なお、**老衰**のグラフは、e-Stat（政府統計の総合窓口）よりデータが入手可能な、昭和55年を始点とさせて頂いております。



知っておきたい 循環器病あれこれ



- 第168号：心臓移植と補助人工心臓の進歩
第169号：小・中学生の循環器病
第170号：循環器病対策の新しい取り組み
第171号：脳卒中患者の緩和ケア
第172号：飲酒と健康リスク
第173号：心不全パンデミックとは



国立循環器病研究センター正面入り口近くのスタンドに置いてあります。
送料を切手でご負担いただくことで実物の郵送も承っております。
また、当財団ホームページで内容をご覧いただけます。（上記QRコード）

公益財団法人 循環器病研究振興財団へのご寄付

ご寄付いただきました方々に感謝の意を込めて、ご芳名を掲載させていただきます。

（令和6年11月～令和7年10月）

〔個人〕

大窪 天三幸様 大門 宏夫様 筒井 良彰様 山内 進様 つながる募金

〔法人〕

エア・ウォーター・リンク株式会社様 ゲルベ・ジャパン株式会社様 小西医療器株式会社様
GEヘルスケアファーマ株式会社様 株式会社ジェイ・エム・エス様 宗教法人生心科学会様
第一三共株式会社様 第一生命保険株式会社様 環産業株式会社様 テルモ株式会社様
ニプロ株式会社様 日本メドトロニック株式会社様 日本ライフライン株式会社様
バイエル薬品株式会社様 PDRファーマ株式会社様 平和物産株式会社様
ヘモネティクスジャパン合同会社様 宮野医療器株式会社様 読売テレビ放送株式会社様

※公表についてご承諾いただいた方を掲載させていただいております（五十音順）。



つながる募金

「つながる募金」はソフトバンク株式会社が提供するQRコード等からのシンプルな操作でご寄付いただけるサービスです。

右記QRコードを読み取っていただくと寄付画面に移行します。
“ソフトバンク”のスマートフォンの利用料金の支払いと一緒にご寄付いただけます。

【ソフトバンクのスマートフォン以外をご利用の場合】

- ・クレジットカードでのお支払いとなるため、クレジットカード番号等の入力が必要となります。
- ・継続期間を1ヵ月（1回）、3ヵ月、6ヵ月、12ヵ月から選択していただけます。寄付期間を選択して寄付されている場合、途中で寄付の停止や寄付期間の変更はできません。

※1,000円以上のご寄付については、領収書の発行にも対応させていただきます。
希望される場合は、ご寄付のお申込み後、「団体からの領収書を希望する」ボタンを押し、お手続きください。



ソフトバンクの
スマートフォン



ソフトバンク以外



公益財団法人
循環器病研究振興財団
Japan Cardiovascular Research Foundation

〒564-0027 大阪府吹田市朝日町1番301-3
（吹田さんくす1番館3階）
TEL 06-6319-8456 FAX 06-6319-8650
<https://www.jcvrf.jp/>